

100年の軌跡を追う！

北播磨のがんばる鉄道 Vol.3

直撃取材！

JR加古川線100周年！歴史と見どころ

僕の祖父の暮らす地域を行き来する鉄道、JR加古川線。加古川に沿って全長48.5kmを南北に結ぶ。その路線の中でも、谷川線（西脇市・谷川）が今、廃線の危機に陥っている。谷川線を救うためにはJR加古川線沿線の地域活性化をすることが必要不可欠であると、僕は考える。今回は駅員さんや地域の人の話を聞くことができた。

JR加古川線は、瀬戸内海に注ぐ加古川の水運に代わる陸路として1913年播磨鉄道株式会社が発足。その後1924年に播磨鉄道が事業を継承。昭和に入り国有化され、1987年にJR西日本に経営が引き継がれる。かつては、SL機関車C56が加古川沿線を行き交っていたことは、播磨中央公園に長く展示されていた車体が物語っている。1995年の阪神淡路大震災のときには、山陽本線の一部区間が寸断されたため、大阪への迂回路として機能した。この頃はまだ非電化で乗り換えも悪かった。気動車では運用効率化を計りづらいため、2004年に電化された。

そんなJR加古川線が今年で100周年を迎える。長きにわたり市民の足として地域を支えてきた路線の見どころはなんといっても車窓に広がる田園風景と沿線の特産品にある。その魅力について、JR西脇市の駅員さんに直撃取材をした。

「日本へそ公園」にある岡之山美術館ですね。外国人も多く訪ねて来られます！大きな公園で、夏には花火大会も開催されます！

西脇市岡之山美術館は、西脇市出身の美術家、横尾忠則さんの作品を収蔵・展示する美術館で、ホームに停車している三両連結列車をイメージした建物は、世界的建築家、磯崎新さんの設計である。西脇市は東経135度北緯35度が交差する「日本のへそ」でもあり、「西脇経緯度地球科学館テラ・ドーム」、「日本へそ公園」もこの駅にある！

JR谷川駅周辺では恐竜の化石も見つかっています！

篠山市のおよそ一億一千万年前の地層から見つかった化石が「角竜類」の新種であることが判明した。これまでに「丹波竜」が発掘され、篠山市と丹波市にまたがる地層・篠山層群は化石の宝庫とも呼ばれている！

小野町のお蕎麦が有名で、とってもおいしいです！

JR小野町駅構内にある『ぶらっときすみの』。使用されている蕎麦は栽培から手がけている自慢の逸品。沿線では他にも特産物がたくさんある。お米、日本酒、牛肉、ぶどう、桃、播州ラーメン...おいしいものばかり！

100周年のラッピング車両も注目です！

125系にラッピングされたデザインは、JR加古川線が通っている丹波市西脇市両市のキャラクターがデザインされており、(下記写真)2025年2月まで運用される！

こんなにたくさんさんの見どころがあるJR加古川線にぜひ乗車しにきて欲しい！



共生社会へ バリアフリー推進！

どんな人でも気軽に路線を利用できるようにJR加古川線ではどのような取り組みをしているのか、JR西脇市駅の駅員さんとJR加古川線の線区長さんに質問をしてみた。

JR加古川線はワンマン運転であることから、主に乗務員が乗降介助を行っています。しかし、車いすをご利用のお客様が駅員不在の駅をご利用される場合には、最寄りの駅等から駅係員が赴き、お手伝いをさせていただきます。これらの取り組みはSDGsの11番に貢献すると考えています。

無人駅を利用する利用者のほとんどが年寄りであるJR加古川線の駅では、連携の取れたサポートが重要であると思う。特に粟生駅では車椅子の方が反対側のホームに行くために線路を渡らなければならず、大変危険であるために事前に連絡して最寄りの駅から駅員を派遣して一緒に渡るといふことを行なっているそう。

災害については、1995年の阪神淡路大震災や1978年に発生した宮城県沖地震で経験したことを活かして協力し合いました。

代替性確保の視点は、災害のためだけでなく残すべきである。なぜなら、都市機能の分散を行うことで人間環境の過密限界を防ぐことができるからだ。また、利用促進の取り組みとして、観光振興や地域活性化の基盤作ること重要である。その例として、観光列車を走らせる案を考えてみた。続きは、下の欄に！

JR加古川線 沿線の魅力！

- 加古川駅
- 日岡駅
- 神野駅
- 厄神駅
- 市場駅
- 小野町駅
- 粟生駅
- 河合西駅
- 青野ヶ原駅
- 社町駅
- 滝野駅
- 滝駅
- 西脇市駅
- 新西脇駅
- 比延駅
- 日本へそ公園駅
- 黒田庄駅
- 本黒田駅
- 船町口駅
- 久下村駅
- 谷川駅

- 平皿に盛られたかつめしは定番！
- 日岡神社、日岡山公園、西条古墳群へ。
- 小野アルプス登山！そろばんも有名。
- おいしいお蕎麦「ぶらっときすみの」
- けやき焙煎場でおいしいコーヒー！
- ぶどうの農家。ワインも作られている。
- 桃や山田錦。播磨平野の夕日は感動！
- 迫力満点の関竜灘。鮎や温泉も最高！



妄想してみた！ 観光列車！「かがわ」と「たにかわ」

人口減少、少子高齢化、地域衰退は多くの自治体が抱える問題だ。JR加古川線沿線でも例外ではないだろう。これらの問題解決、地域創生のきっかけが掴めないかと、僕は打開策として加古川線に観光列車を走らせることを考えた。同じような状況にあるJR播磨線やJR小浜線でも観光列車を導入していることからJR加古川線でも走らせることができるのではないかと考えたからである。

まず観光列車のコンセプトは地域の特産品をたくさん詰め込んだ北播磨を感じられる列車のイメージ。その車内は播州織で飾られた座席や地元の野菜・果物を使ったお弁当など様々。運転区間はJR加古川線全線。途中、日岡神社や関竜灘、日本へそ公園、西脇市岡之山美術館、にしき経緯度地球科学館テラ・ドーム、丹波電化石工房などを散策するのにもいいだろう。特に谷川線沿線は、サントリーの天然水にも選ばれているひょうご西脇門柳山を持つ美しい里山の風景で、おいしいお水から作られる日本酒やお米、黒田庄牛も車内のレストランで食べることができる。車体は、JR粟生駅から接続する北条鉄道が秋田県JR男鹿線のキハ40系の車両1両を購入しているの、それに習って、僕も気動車をクラウドファンディングをして購入したいと思う。

この地域は農業も盛んで、季節の野菜や果物、そのほか美味しいものがたくさん収穫(下記写真)できる。それらを使って、新鮮野菜をメインとした和食を提供したい。また、往路復路でテーマを変え、多くの集客を狙う。



案② ラッピング車両と播州織を使った車内
播磨平野の夕日はとても美しく、西陽がとてきれいだ。かつては、横尾忠則さんの作品がラッピングされた車両もあった。僕は、夕日をモチーフにした車両を提案する。また、車内は特産品の播州織を使い乗るだけで織物の町を感じられるようにしたい。

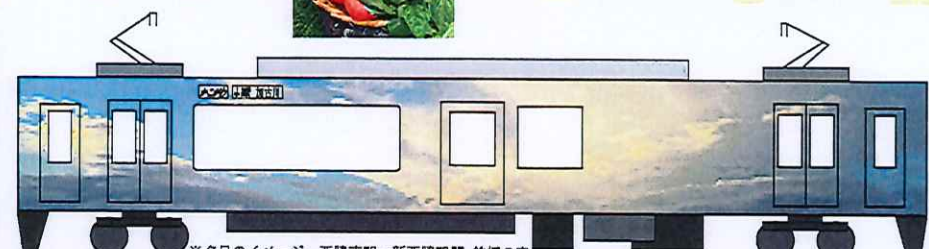
案③ 車窓の風景
電車旅を演出する最大の魅力は、車窓の風景だ。じっくり味わってもらうために、ピンポイントでゆっくり走行する。滝―西脇市駅間は、春になると桜並木が美しい。田舎町の隠れた名スポット(下記写真)だ。



編集後記

祖父の家にいくつに利用しているJR加古川線は皆が利用しやすいように連携したバリアフリーに対応する工夫があった。調べていくうちに乗務員さんも運転だけでなく困っている人のお手伝いをしたり、駅係員さんを派遣して事故が起きないよう安全に利用してもらおう努力したりしていることを初めて知ることができた。

「人、まち、社会のつながりを進化させ心を動かす」目標に向かって今も走り続けるJR加古川線を、僕は心から応援したい。



※夕日のイメージ。西脇市駅―新西脇駅間、鉄橋の空。